

津波後に新たな砂州が形成された

概要

現在の蒲生で見られる砂州は、津波後に新たに形成されたものであり、現在も潮汐作用による砂州の形成が進行している。

調査地点と調査方法

調査地点は、砂州の最も高い地点で、砂州表面の堆積物の観察、及び堆積構造を観察するため、掘削と堆積物のはぎとりを行った。



Fig.1 3月12日撮影の空中写真と津波前の地形（青線）
 <国土地理院資料に加筆>



Fig.2 後浜の貝殻片などのラグ汀線と直行する方向に伸びる

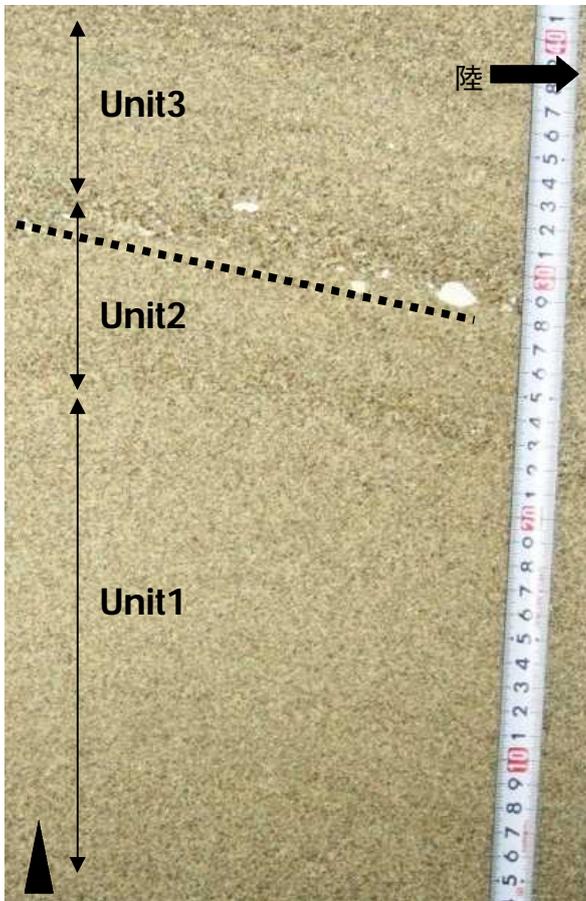


Fig.3 砂州で採取したはぎとり標本

後、砂州が安定した後、後浜堆積物のUnit2が堆積した。さらに10cmほどのUnit3が重なることから、津波後も砂州は高さを増しながら、陸側に向かって成長していることがわかる(Fig.3)。

まとめ

砂州の後退は一般の堆積物中では、海進時に見られる。今回の砂州の後退は津波による侵食作用によるものが大きいと思われるが、余効変動による地盤沈下の影響も加味する必要がある。今後も当該地区の地形の変化を継続的に観察していきたい。(西城光洋)